

第11回 流山市災害医療対策会議 会議録

日 時： 平成27年5月28日（木） 15時から16時30分

場 所： 流山市保健センター 2階 医師会会議室

出席委員： 鈴木会長 中島委員 寺田委員 板津委員 小池委員
山口委員 落合堂委員 内田委員 山口委員（松戸健康福祉セン
ター） 上田委員（流山警察署） 佐々木委員（消防本部） 岡田委員（消
防本部） 石田委員（市民生活部次長） 鶴巻委員（防災危機管理課長）

欠席委員： 齋藤副会長 藤波委員 宮島委員（健康福祉部長）

事務局：（健康増進課） 増田課長 寺田課長補佐 続木課長補佐 浅水主任保健師
吉岡主任保健師 内海

議事録（概要）

事務局（増田次長）

時間となりましたので第11回目の流山市災害医療対策会議を開催します。

会議に先立ちまして、委員の変更について報告させていただきます。

去る4月1日付けで流山市役所の人事異動があり、本会議の委員である染谷健康福祉部長が退職となったため、新任の宮島健康福祉部長が委員を引き継ぎました。なお、宮島委員は本日公務のため欠席となっております。

また、防災危機管理課長の石田委員が課長兼務を外れ市民生活部次長となり、新任の鶴巻防災危機管理課長が委員を引き継ぎましたので報告します。

なお、本日は石田元委員も同席させていただきますのでよろしくお願いします。

それでは議長、本日の議事進行をよろしくお願いします。

鈴木会長

ただいまから第11回目の流山市災害医療対策会議を開きます。

なお、出席委員13名、欠席委員3名であり委員の半数以上の出席がありますので、会議は成立していることをご報告申し上げます。

それでは、次第に沿って会議を進めてまいります。初めに、私から一言ご挨拶申し上げます。

最近、暑くなってきましたし、先日、震度4がくるとビックリしました。東日本大震災では、ここは震度5弱でした。震度5弱になると市が活動のスイッチが入る状態にな

っております。医療の方では、震度5強にしようか震度6にしようか迷っているところでございます。震度5で何もなければいいのですが、これからの協議の中で活動する強度については決めていきたいと思っております。また、地震がきたという感覚を持ちながら、これから協議を進めていきたいと思っておりますので、みなさんよろしく願いいたします。

それでは議題に入ります。

まず議題(1)の「N-m a t構想について」ですが、私から説明します。

前回から、私の方から「N-m a t構想について」お話をさせていただいております。勝手ではございますが、私の方からお話をしたいと思っておりますが、みなさんよろしいでしょうか？

では、資料のP19に、「第6節 N-m a tチーム他」を入れさせていただきました。文字がたくさん書いてありますので、P21の表と照らし合わせて見ていただきたいと思っております。

P21の表をご覧ください。

「災害対策本部」は、市に置かれます。「災害医療コーディネーター」は、私と中島先生、横田先生の3人しか動くことができません。この3人が集合して行きます。

P26の表をご覧ください。

「流山市災害救護対策本部(保健センター)」は、医師会・歯科医師会・薬剤師会・市職員の方々が、東深井中学校・常盤松中学校・南部中学校・南流山中学校・東部中学校の各救護所に集まっております。それぞれに、N-m a tチーム1～5までつくりたいです。先に来た方で先生や歯科医師のN-m a tチームのとりまとめをしていただきます。薬や人や物資や毛布などが足りないのをどうこなしていくのか、私たちは医療チームなので、医療チームの中での医師・歯科医師・薬剤師・事務の各1名がほとんどのことを取りまとめたいと、その後に来られた方を治療チームに入ってもらい、お医者さんの方でやっていただこうと思っております。この中に歯科医師も入っていただくこともございます。しかし、厚生労働省に問い合わせると歯科医師も他のこともできるのに手足の方法はできないという見解が出ています。そうすると、歯科医師は歯科のことにしかできないということになります。場合によっては、トリアージもできないこともあり得ます。歯科医師の齊藤先生と寺田先生には、前々回にお願いしたのですが、巡回チームの一員に入ってもらいたいと話をさせていただきました。巡回チームは、前回、ご提示させていただいたアセスメントシートがあったかと思っておりますが、これは、資料に入れておいてください。このシートは、なんでも自由に書いていいものであります。

アセスメントシートを見ながら、チェックをして避難所の状況を見回って、その状況をまとめて、すべてのことをN-m a tチームに相談し提案する。

N-m a tチームにいる先生たちが、それをもってコーディネーターの私のところに連絡していただき、それを把握するかどうかを市との交渉を私がしていき、市から県へ

交渉して、ヘリコプターを飛ばしてくれとかということをやろうというシステムであります。

資料のP19の第6節では、そのチームは地域によって①～⑤まであり、②のように、N-m a tチームは、流山市災害医療コーディネーター（以下、コーディネーターとする。）への情報（被災者搬送・不足薬剤の搬入連絡・食料の搬入等）の伝達と収集・依頼・避難所との相互連絡、避難所というのは、学校の保健室や教室はあけられません。感染症があった場合、どうしても隔離をしたいという場合に、N-m a tチームの中のコーディネーターが学校の先生と現場で交渉していただく、そのことが私たちのところに情報が入ってくる。治療チーム青・黄・赤黒チーム編成し、被災カルテの製作保存・被災者の情報提供等を行う。また、被災者の情報開示は、個人情報には十分配慮し、了解を取ることが大切になります。県に報告する際に、氏名・何歳・性別・症状などの情報をどの程度まで開示するのかまとめておく必要があるかと思えます。

③では、N-m a tチームは、まず初めに、a治療チーム青 b治療チーム黄 c治療チーム赤・黒の3チームと、d巡回チームを編成し、それぞれを統括していただきます。④のボランティアでは、近隣在住の医師・歯科医師・看護師に限定の登録・配置を行う必要がある。ボランティア登録もN-m a tチームが行っていただきます。⑤になりますが、実は、柏市は柔道整復師が入っています。なぜ、柔道整復師はいいのかというと固定することとなると耳鼻科や眼科のお医者さんより手早くてうまいです。例えば、新聞紙を丸めて固定するとか、それもN-m a tチームに任せたいと考えています。ただし、ここで気をつけないといけないのは、整体・カイロプラクティック・スポーツトレーナーは無資格なので、災害があって無資格診療になる可能性がでてしまうので、絶対、入れないことをN-m a tチームに徹底しておきたいと思えます。患者さんの中でも「医者だろう？」と思っている人は、たくさんいると思えます。整骨師は、国家認定を2年間、整体・カイロプラクティックは、2ヶ月で無免許で学校卒業だけということです。スポーツトレーナーが、例えば、避難所の血栓症予防のために、体操をやりたいとかというリクエストがあるかもしれません。お金の締結はできないと思えますので、これはボランティアということをはっきり言っていたきたいと思えます。また、柔道整復師・マッサージ師についても市と提携するのはなかなか難しいと思えますので、自動車免許証とか携帯で写真を撮ったりして、実は、お医者さんは、医師免許証と同じカードができます。実は、偽造ができないことになっております。医師資格証というのが出来上がります。もう既に行っているところもございませぬ。医師免許証は、更新はないのですが、保健所に登録したり、千葉県に申請したりと番号登録はするのですが、5年ごとに必ず更新することになっております。生きてるとか、生きていないかということは、ここでわかることになります。本当の医師なのかどうかということも、すぐわかってしまいます。このことから、将来ここでも使っていきたいと考えています。そうすると、現場のボランティアに来ていただいた時に、スマホを翳せば、この人は医者なのか全部わかります。その中身の状況などは、ここでは言えませんが。治療チームは、先程も言ったように一チーム1～2班構成できればいいかなと思っています。

治療チーム青と黄が多いと思いますが、一チームずつできればいいと思って、このような図を作成させていただきました。治療チーム赤・黒は、赤見て黒見たりすると、大変だと思いますが、赤も黒もほとんど同じたぐいだと思いますので、実際、最初の48時間の間に赤が来るというのは、少ないと思います。だいたい小さい傷の方だと思います。それから引き出されて、赤が来て黄色が来るようになると青チームが暇になってくるので、それを赤チームに持っていくという流れが、流山N-m a t チームの役目になってくると思います。

次に、巡回チームになりますが、医師・歯科医師1名、看護師1名、事務1名で編成して、細かくアセスメントシートを入れていただいて、それをN-m a t チームに報告するというかたちでやっていきたいと思っています。巡回チーム数は、何チーム作るとは書いていません。N-m a t チームが臨機応変に編成したいと考えています。P22に、各救護所が担当する避難所のように、これだけ人数が違ってきています。これだけの救護所が違くと人間が違くと感じています。ここで公園などに一度避難した人を屋根のある避難場所に誘導することになってきます。どの程度の人があるのかということと、南部中や南流山中の避難場所が少ないと思うのですが、つくばエクスプレス・東武野田線・武蔵野線などで被災された方を避難所に収容するとなると、これだけの数で大丈夫なのかと心配しています。ただ、N-m a t チームが人が足りないよと言われたら、災害医療コーディネーターの方に連絡していただいて、例えば、南流山で手があいている人がいるので、東深井にまわすよとか、または近いところからまわすとか、臨機応変に対応していければと思っています。また、東部中学校のところでは、先生が3人ぐらいしかなくて、ここは国道6号線や常磐線を挟んでいるので、搬送となると難しいところであります。常磐線の南側に向小金という地区がございまして、そこに前会長の大津先生がいらっしゃいます。大津先生が東部中に行くのに橋を渡ってくるのは大変難しいかと思いますが、一応このように決めておかないといけないと思っています。

ここで一つお願いしたいのですが、今度、地図上に書かれた方がいいと思っています。資料P28の救護所（中学校5校）及び病院位置図ですが、例えば、東深井中の救護所が流山中央病院まで見られるかということ、そのへんの仕分けを私だけというのは難しいので、行政（市）の方で作っていただけないでしょうか？

この状態で色分けをしていただいて、この救護所に避難所を加えて、例えば、東部の人たちは、このエリアだよとわかるようにしていただきたい。江戸川台東4丁目は、江戸川台小に集まるのだけど、その先の東深井の坂を下りると東深井中だよと境目については、既にご存知だと思います。実際、住民は、当日どちらに動くかはわからないのですが、でも基本的に、この辺の地域は、こっちだよと概略は決まっていると思いますので、それに沿って色分けをしてもらいやっていただければと思います。P22の表をもとにつくっていただければと思いますが、何かご質問はありますでしょうか？お医者さんもどのくらい集まれるか心配であります。このことから限られた人数とお医者さんと看護婦さんと歯科医師さんと薬剤師さんと病院で、どれだけ診られるかということになると思います。実際は、なかなか埒らない悲惨な状況なのです。

寺田委員 N-m a t チームで、治療チーム青・黄とあって、P21の図では、チーム1・2が軸になってメインになると思いますが、中学校の中で、トリアージはどこで考えていますか？

鈴木会長 トリアージは、N-m a t チームにしようと思っています。
お医者さんが集まって、N-m a t チームを作るのですが、まだ青・黄チームができていなし、まず、先生トリアージしてとか言ってさばくことになると思います。救護所でトリアージするということになるかなと思います。そのことについて、記載が洩れていました。大変、失礼しました。

寺田委員 マッサージ師というのは、言葉は今もありましたでしょうか？
鍼灸師は？
あと、針灸とマッサージは同じですか？

鈴木会長 マッサージ師は、あります。
鍼灸師は、針灸です。
針灸とマッサージは違います。

寺田委員 マッサージの資格は生きていますか？

鈴木会長 生きています。マッサージ師は認定もっています。

山口委員 あんまマッサージという名称で、針灸と鍼灸師とは別です。

鈴木会長 何で、あんまマッサージを入れたかという、血栓症があるからです。だから少しでも、エコノミ症候群を減らすために、私たち医療の中では、血栓症予防をしようと思っています。例えば、車の中で寝泊りした人たちに、やっぱり血栓症をおきるだろうということを踏まえて、このマッサージ師を入れてあります。というかたちで、よろしいでしょうかということ
です。
地図に、カラーを入れてくれますでしょうか？

増田次長 がんばってみます。

鈴木会長 あと一つ、大事なことを忘れていまして、だんだん黒が出てくると思います。
N-m a t チームの中で、もし赤の人たちが搬送をいっしょについて

いかなくなくてはならないとなると、そうなると青チームが残った場合、そこで段々に検視しなくてはならないのです。そこでは、医師も歯科医師も必要なので、この記載をここに入れるのを忘れてしまったので、P20の「その他の依頼等」のところに、検視についてN-m a tチームがまとめることを書き加えてほしいと思います。病院は、病院部会の方で、必ず黒になってしまいう人がいると思いますので、その検視は連絡とりしだい行っていただきたいと思います。また、警察や自衛隊は、すごく大変だと思うので、なかなかそこまで手がまわらないと思います。霊安室だって、どこに置くかということも大変になってくると思います。一体二体ではないと思いますので。取り違いがないように、最後までトリアージカードは、必ず記載してもらって行くことがすごく大切になってくると思います。箱が用意できなくなってくると思います。箱がないとなると、補助が出るかどうかは別として、死体検案袋は一体1万円かかってきます。

山口委員 保健所に、納体袋あります。

寺田補佐 市には、10袋あります。

鈴木会長 その納体袋を各病院に持っていくしかないのですかね？

寺田先生 病院は、いらないですかね。そのかわりに、救護所に必要ではないですか？

鈴木会長 救護所では、みんないなくなってしまうので、納体袋を扱うこと難しいので、そこにはいらないです。病院部会に行っちゃうと思います。そこでどうするかを考えないといけないと思います。お金のことも係ってきますので、そのへんについて調べてみてください。

山口委員 値段はわかりませんが、保健所では、結構ありますよ。東日本大震災の時に、県で貸し出しをしています。

鈴木会長 貸し出しは、できるのですか？

山口委員 そのためにあるのですから、貸し出しは出来るのではないのでしょうか？

鈴木会長 県のほうで貸してもらえるのか、貸してもらって返す時に、お金を払わないといけないとか、将来どうするのかとか、そのへんについても調べてみてください。

山口委員 調べてみます。

鈴木会長 市の方で、提供してもらえれば、県から借りる必要がないのでね。実際に、使うかどうかはわかりませんが、事前に用意しておかないといけないと思います。霊安室に一体使用しているから、今日は駄目ですと言えないので、毎日2体3体と出てくると思います。別の部屋を霊安室として使うことも出てくると思いますので、そのへんは難しいのかなと思っています。先程の地図のことですが、地区によってそれぞれ違うと思いますので、地区のところに地図をパウチして、ここをまわってくださいということをカラーリングして置いてあげると親切かなと思っています。そこに巡回チームがまわってくれというかたちで、そのほうがわかりやすいですよ。その地域ごとにカラーしてあって、例えば、東深井中学校エリアだけの地図を東深井中学校に置いておく。もう一枚は、小さくてもいいから、次に行く場所がわかるようにしておいてほしいと思います。みなさんも施設がどこかにあるか、とっさに言われてもわからない場所が多いと思いますので、各地域の拡大図と全体の拡大図を用意しておいたほうがいいと思います。今でさえ、わからないのであれば、当日は、もっとゴタゴタになってしまうので、わかりやすい図面だけでも用意していく必要があると思います。現場の誰もが、「確か、N-m a t チームに図面があったはずだ。」という認識をうえつかせることが、すごく大事だと思います。その地図でN-m a t チームが来ますよ。ということを各病院部会にまわすのもいいと思います。例えば、東葛病院では南部中地域を知ってもらって、愛友会では、南流山や東部中地域を知ってもらって、流山中央病院では、常盤松や東深井中地域を知ってもらったらいかなと思います。どの地域に、どのくらいの方が来るのかを少しはわかりやすいのではないかと思います。行動範囲も把握できるかなと思います。いかに短時間で、人を救わないといけないので、しかし限られた人と時間と薬品ということが、大原則の災害医療だと思います。それでは、カラーで各地域の拡大図と全体の拡大図を用意していただけますでしょうか？あと、もう一点お聞きしたいのですが、救護所を決めたのですが、それぞれ住んでいる住民数が違うのかなと思っています。例えば、東深井地域は広いのに、南流山や南部地域より人は少ないということはありませんよね。

寺田補佐 4箇所和学校区ごとにわけたところ、南流山中と南部中地域を1箇所と見た場合に、南流山中と南部中地域の人数が多すぎたということで、この2箇所にしました。それで、学区の人口で見ると、だいたい平均的な人数に

なります。

鈴木会長 だいたいこの地域の範囲で、平均的な人口ということですね。
先程言ったように、駅や高速道路から来た車が集中してしまったとか、そういうことも考えておかないといけないと思います。だから、交通の要になるところは、気をつけて、もしかしたら人が多くなるということもその辺も考えてやりたいと思っています。
それで、あと、新しくなる体育館と生涯学習センターは、収容することになると思います。
旧体育館は、壊すのですか？

寺田補佐 いずれは壊す予定です。

鈴木会長 そこで聞きたいのは、旧体育館を壊すまで使用できるかを聞きたいのですが？

増田次長 確か、耐震がギリギリだったと思います。でも、すぐ壊すということではないかと思います。

鈴木会長 耐震ということですが、壊れてなければ使うということですか？
どうしても、収容となると屋根が付いているということになるそこに入れろと言われると思います。新体育館は十分にそのへんはクリアされると思いますが、旧体育館もそれなりに使用すると思いますので、もし、壊していなければ、入っていいかということもその時に結論ということでは間に合わないです。そのこともどうするかということも考えて調査していただきたいと思います。
また、新体育館に物品が揃ってないといけないので、事前に用意しておく必要があると思います。
あと、市の方たちが、どれだけ「救護所がこっちです。避難所がこっちです。」とアナウンスできて、いきなり病院には行かないでということもアナウンスしてもらって、軽症に限らず、必ず救護所を経由して病院に行ってください。というアナウンスができるかどうかということになると思います。それが、現場にできることかなと思っています。それでなくても、絶対に直接病院に行ってしまうと思いますが。
また、薬剤師の先生方は、薬剤手帳を使って、患者さんに普段からプレゼンテーションしていて、緊急時や絶対これだけは、最低限あなたには薬をこれだけは必要ということを薬剤師の先生にお願いしたい。主にアレルギーABPCが特に多いかと思われま。

このように、詳細なことを市民の方や被災者の方に、いかに示していくことが、流山市の災害医療チームであるべき姿と思っています。それが、最低限のサービス提供にも繋がると思います。

今回は、薬剤師の先生たちと、これから今のことについてつめていきたいと考えているところです。

今、アセスメントシートをコピーしていただきましたが、1枚目は、何かあった時に市からの伝達状況で「どこから発信し、こういうことだよ」という内容をつけてまわせるようにしようと思っています。このアセスメントシートが実は巡回チームがもってってもらえるシートなんです。

このシートは、東日本大震災にも使っていますし、自由に使ってもいいものであります。このシートを見ていくとN-m a tチームがそれぞれわかってきて処理をして、流山市のコーディネーターの私（鈴木先生）と中島先生と横田先生しかいません。3人しかいないのですが、板津先生、看護師会を入れて、いっしょに行動していただきたいと思っています。できるかどうかわからないけれど、市の災害対策本部の一角に私たちのコーディネーターチームが居座るんだよというような言い方で、市長さんや副市長さんをお願いしたり、看護部会は内田さんや何人かボランティアいるのですが、「あなたは、そっちに行って」という伝達をすると、それを私たちが聞いて指令を出していく。そういうことがコーディネーターの役目なのです。当然、医療ではないことも出てくると思いますので、例えば、「トイレが汚い」とかいうことも聞いて、市の防災管理課に連絡することもできます。災害になると、大体が文句になってしまいます。その文句をどうクリアしていくかということも行政と医療の役目になると思います。本当に、重症な人は、ほんの少しであります。災害の時は、逃げられる人は逃げてしまいますからね。災害での不満とかをどう対処するかと医療と絡み合わせて、臨機応変に対応していかなければならないと思います。そういうことから、災害本部の脇に災害医療コーディネーターチームのスペースを何とかならないかなというお願いをしたということです。その場所が、市役所でなくても隣のケアセンターの会議室でもすぐ私たちすぐ行けますね。その場所については、数分の違いですので大丈夫です。私たち5～6人しかいないので、どこのスペースでも結構です。第2庁舎でも議会の議場でも構わないです。

あと、うちの患者さんで、新潟地震を経験した方がいまして、道路が畝っていたと言っていました。「立てない。歩けない。動けない。」という状況で、どうやって帰ろうと思って、結論が出たのが3日後と言っていました。そのように伝達も遅くなってしまうし、食事も採れない。薬も足りないとなると、スペース確保するには、近いほうがいいのではないかと考えているので、少し考えていただけないでしょうか。

増田次長 総合的に検討します。

鈴木会長 時間短縮ということも考えていただいてもらいたい。
地方がいない物資が届いた場合、その物資を振り分けが大変になってくると思います。
いないシャツや既に着れないシャツ等とかが混ざって物資として届いてくるので、その物資をどこに溜めておくところは、すでに決まっているかと思いますが、どう配布していくのかについては、コーディネーターと相談していかないと、例えば、「子どもの靴が足りないよ」とかということがN-m a tチームと避難所との関係であがってくると思います。そういうことから、できることであれば、近いところに設置したいと思ったところです。

増田次長 災害救護本部が保健センターから向こうにいった場合、ここはどうしますか？

鈴木会長 職員の休憩所として使わないといけない場所としてもあるので、休憩所として使うか。住民には入ってほしくない書類とか絶対あるかと思いますが、そういうことを考えると、医療スタッフや職員が休めるところとか、ちょっと食べられる場所のスペースにしたほうがいいかと思います。

寺田補佐 何日かすると応援チームが来ますので、そういう方の拠点としてもいいかなと思います。

鈴木会長 そうですね。寝泊りしてもらってもいいかなと思います。また、ケアセンターも拠点にしてもらったほうがいいかなと思います。何チーム来るかわからないですからね。

増田次長 ケアセンターは、確か福祉的な避難所という位置づけになっています。

医療に係った人は、市独自で対応、我々、消防は応援協定を結んでいるのですが、自分のところで足りなければ、近隣の市町村や県に依頼になりますが、県とかのパイプはあるのでしょうか。

鈴木会長 災害拠点病院になります。しかし、流山市は残念ながらありません。ということとはとれないということになります。だから、会議の発想は、J-m a tチーム他も最初は来ないということになります。松戸市立や慈恵に

泊まるそれ以上は来ないことになります。だから、それまで72時間ぼっ
としているわけにはいかないので、72時間の救急として、それぞれの大学
でチームを作ってくれて、九州大学から来ちゃうかもしれない。そうし
たら、そこにチームを住ますとかですかね。医療チームですから、だいた
いな書類があるとか市民に関する情報とか探ったりしないと思いますので、
また、72時間するといろいろなところが動きだすと思いますので、いつ
N-m a tチームが解散するかということを決めないといけないと思
います。もとの診療所に戻りましょうと、また各先生方の生活や家族や収益
のこととかさまざま問題がありますので、休みながら自分のところを見
に行きたいと思いますので、うちの医師会の先生の中にツイッターで現
状を流してもらえないかということをお話させていただきました。
情報を取ってきてのせるまでが大変なことと思います。情報を早く発信
することが一番大切でツイッターは必要かなと思います。
東葛病院から連絡があったからここに来てくださいとか、あとは、北の方
でお医者さんが足りないの、いっしょに巡回チームや治療チームと合
流してくださいとか、たぶん巡回チームと救護所チームになると思
いますので、これは基本巡回です。私たちは、これは出来ないの、N-m a
tにしようと思っています。

内田委員 避難所の巡回も組織でできると思うのですが、流山中央病院や千葉愛
友会病院はそういうものはあるのでしょうか。

山口委員 ないです。

鈴木会長 流山中央病院は、これから老人施設が出来上がってくるので、そういうと
ころにたとえば、介護が必要な方をなんとか入れてもらうとか、また、北
の方にまた新しい施設ができてくるので、これから老人の方をどうやっ
て入れていくかということになります。千葉愛友会記念病院は、病院とし
てはいっぱいあります。中央メディカルグループとしては、施設・病院で
約90あります。ケアセンターは、ケアを見てもらうしかないし、病院と
して一番近いのが、柏厚生病院です。次は、新松戸中央病院と三郷中央病
院の3つです。
その他だと、船橋・津田沼・八潮・吉川・埼玉開成・草加・浅草・越谷と
いっぱいあるのですが、全部に川があるんですよ。絶対に来れませ
ん。これだけ決めても流山市で考えると、おおたかの森病院に行っちゃいま
す。でも、柏市なんです。でも、そこの地域の人たちは、おおたかの森病
院行ってしまいます。今度、松倉先生と今後どうしていくかということ
を相談していき、柏市の各開業のお医者さんは、自分のところを閉鎖して病

院に集合します。病院の中で、スタッフとしてやることになっています。その指令は、慈恵医大柏病院に J-m a t がきますので、そこから詳しく指令して行うことになっております。救護所とかを回ってくださいますとかは病院で決めることになります。あと、市境である向小金、南柏は道路一本で違ってきて大変と聞いています。実際、慈恵医大柏病院の前は田んぼなんです。慈恵医大柏病院前は、液状化すると言われていまして、今度の新棟はしないけど、旧棟はするかもと聞いています。そうすると J-m a t こないよねとか言っていました。その連携も含めて、柏は柏の方針で診てくれると思います。流山市の住民が、おおたかの森病院に行きました。病院では全員診ますので、そこでトリアージされます。トリアージされた時に、では、流山市に帰ってとなるか、トリアージの状況で応急のみ診てもらって帰ってくるかということになると思います。必ず、帰ってこないと行政サービスが受けられないので、どういう方針で流山市に行くのかという、市の行政の復興の状態がわからないので、いつかは戻ってきてもらわないといけない。

あと、松戸市はしっかりできています。松戸市立病院や松戸整形外科などたくさんありますので、そちらでやることになると思います。まだ、松戸とはお話しをしていませんので、今のところはなんとも言えない状況です。柏市とは連携が取れるようにしております。

病院の m a t チームができたのは、下先生からも聞いていますので、それはそれで連絡をとっていただいて、2日後（48時間）以降になってしまいうかもしれないし、24時間で来てもらえるかもしれないし、来たら、こちらに来ていただいて、私たちとコーティングして、足りないのでもこちらに回ってください。アセスメントシートは、向こうにありますよと言ってあげた方が便利かなと思います。

内田委員 第6節 N-m a t チーム他の④についてですが、柔道整復師やマッサージ師については、自動車免許などで行うことになるかと思えます。

鈴木会長 医師は医師資格証でできると、歯科医師は、ちょっとわからなれないのですが、ただ、歯科医師もしっかりチェックしておかないといけないので、ご指摘のとおりでございます。少し改善したほうがいいかなと思っていたのですが、今はここに載せさせていただきました。看護師は、こういう認定書というのはないですよ。免許書だけ持っているお母さん看護師もいますしね。何か記録を残しておかないといけないので、携帯で写真を撮っておいてもらってもいいし、ボランティア登録票みたいなものを作って、住所・氏名・電話番号ぐらい書いてもらって、記録したものをとっておかないといけない。間違った医療をやるとあとあとトラブルになっ

てしまいます。

ちゃんと何か記録を残すことが必要かなと思います。

やっぱり、ボランティアに関しては記録を残しておいた方がいいと思います。薬剤師についても同じですね。

板津委員 県から資格のものがあって、必要な時にそれを首からかけてやるようになります。

鈴木会長 例えば、仕事をしていない薬剤師はどうしたらいいですかね。その場合は、車の免許書や自筆のサインなんかの紙を残して、プリントはできないと思いますので、誰かのスマートフォンで残しておくことが必要だと思います。

板津委員 薬剤師会では、どんなものが必要なのかということで、いろいろなことが山積みとなって本番に機能するのか、このことについても県に話してまして仕分けをしました。運送は、ぶよう会という団体、仕分けが薬剤師会ということです。ボランティアなどが搬送した時に、どこに搬送したらいいのかわからないと思うし、電話をかけて、その時に受ける方が1箇所にしておかないといけない。

鈴木会長 流山市の場合、物品の集中は決まっているのですか？

石田委員 薬剤の救援物資は把握していませんが、全国からくるとコミュニテイプラザを第一にしています。

鈴木会長 流山インターチェンジの近くにあるところですね。コミュニテイプラザは、県の施設ですか？

増田次長 市の施設です。

鈴木会長 今後、板津先生と連絡をとってもらって、救援の薬剤は、いったんそこに集めるということですね。それをどう振り分けるかということです。救援物資はここ、人はここ、大学の MAT チームはここ、物資はそちらというようなかたちで連絡を取り合って決めてください。あと、その他の依頼チームということで、細かいことをなるべく把握してあげて、アセスメントシートは、たくさん書かれていると情報が非常に楽なんですよ。現に、1月にシュミレーションしたのですが本当に助かります。

書いてないと、A3版のように、どれが一番重要なかわからないんです。ここでは何が必要としているのか。それを集めたものがこのシートなんです。そうすると薬剤をこっちに、人が足らないから医療チームこっちとかいうことがコーディネートできるんです。このアセスメントシートがいかにか正確に書いてくれるかということが大切になります。N-mat チームは、避難所内感染者の隔離を、早急に学校長・避難所チーフに連絡し、保健室・教室等を開けてもらうことにはなりますが、保健室はできるだけ開かないかもしれません。薬剤があるので、教室を開けるとするのが第一になると思います。学校の教室をあけるのは、学校長の許可が必要になります。学校長がいない場合は副校長になります。感染症被災者は、隔離しないといけないので、そのへんをN-mat チームに連絡してほしい。それから避難所の個人の駐車場の配置とか、搬入者の駐車場スペースの確保とか場所などを救護所のどこに置くかも決めないといけないと思います。勝手に持って行ってしまう人がたくさん出てくると思いますので、鍵がかけられるところがいいのですが、急遽はなかなか難しいと思いますので、良い方法で考えていただきたいと思います。例えば、職員以外立ち入り禁止とかいうことが貼れることが大事かなと思います。それから、避難所で重傷者がいる場合は、現場においてトリアージを行い、医師や看護師などが避難場所に残って、残りの巡回チームメンバーが救護所にいるN-mat チームに連絡することになります。そこから病院に搬送できるようにしたいと思っています。あと、物資を取りに行く場合、N-mat チームはなかなか動けないと思うので、行政ができるのかどうか疑問が残るところです。市の方が振り分けをできればいいのですが、遠くから通われている方もいますので、そこは臨機応変に対応できればと思います。

石田委員 物資については、基本的には備蓄倉庫から各避難所に輸送できるように準備しているところがございます。東日本大震災においても、市の方も被災されていて、実際には自衛隊とか運送業者を通じて、大きなセンターから各避難所に定期的に回っています。避難運営委員会というのを各自治会で設けていますので、物資を分ける方とかいます。

鈴木会長 N-mat チームにも避難運営委員会にも委員長がいるよという表示をしたほうがいいですね。それでコミュニケーションをとるんだよという文書を変えさせてよろしいですか？
あと、マスコミ対応を上手く行って、マスコミからの情報提供を行うことは大切であります。人の名前とか被災の状況とかをうまくコントロールすると物資がまわってくるそうです。うまくやるとテレビとかで流して

くれたりすることもあると物資がどっとくるそうです。そういうこともうまく利用したほうがいいと思います。

あと、避難所周囲の道路の誘導を考えておくということで、避難所のまわりにみんな車で来場し、救急車や消防車や避難物資を持ってきてくれた車が入れないということもあるので、その整理もなんとかしないとイケないので、避難所の周囲の方に協力をもとめないといけないと思います。

あと、各避難所において、情報を被災者に提示するというので、どこまで個人情報の提示がありますので、名前までカタカナで書くしかないのと、N-mat チームにたくさん尋ねられると思います。○才女性ぐらい書いてもらって、あとはN-mat チームにどうぞ尋ねてくださいと言ったほうが、個人情報の漏洩にならないと思っているのですがどうでしょうか？

あと、個人情報の開示可否などを市において記録を残しておかないと、また何かあった時に大変かなと思います。捨ててしまう事は、しない方がいい。情報提供はカルテと同じになります。5年間の保存はしておいたほうがいいと思います。未だに、東北で見つからない方もたくさんいるわけですから、最低5年間は残しておくのは必要かなと思います。この期間についても検討していただきたいと思います。あと、ボランティアとした方々の情報についても保存をよろしくお願いいたします。

以上で私から説明でありましたが、他に、気にかかることがあればお願いします。

山口委員 マッサージ師のことなんですけど、正式名称はあんまマッサージ指圧師です。(免許において)

鈴木会長 みなさん、そこを直しておいてください。
あと、第5節の域外搬送拠点のところですが、MC 協議会に大野先生が出席されて、ちょっと行き違いするところがあるとの事があったとの報告がありました。

119番通報したところは同じなのですが、そこからへりを要請するかは、センターになります。

鈴木会長 千葉県にへりは2台しかありません。
実際には、流山市にへりは来ないと思いますので、でも依頼はできます。いろいろなチームと確認していただいて、できるだけ消防救急隊さんも

災害本部等の連携で、どうにか行き違いをなくしていきたいと思っています。

それが、今回の MC 協議会の議題でありました。

3・11でも医師会であったのですが、規定がすごく厳しい条件がありました。

自分のクルマではダメ、病院の車でなかったらダメ、そうでなかったら、ガソリンも渡さない。確かそうだったと思います。県は、施設名を入っている車を登録しろと、緊急だったからかもしれませんが、個人的なものは行かせないという状況だったと思います。だから、事前の登録が必要ということになります。

あと、医療を携わっている方で、病院はいいとしても、何か自分を防御するものを持っていてください。(マスクや手袋や笛など)

先日の秋葉原の事件で、何の防御もなくマウス TO マウスしたら、C型肝炎になってしまった事例もあったので、やっぱり自分に対しての備蓄をしていただきたいと思います。そのへんは、個人的にお願いしたいと思っています。

市の方も救急隊さんの CPR の訓練も参加していただければと思います。みんなが共有していただければ、何でも N -mat チームに任せなくてもすむことになります。少しでもサポートになります。帝国ホテルの方は、すべてマウス TO マウスのビニールを持っています。CPR プログラムの認定書を持っています。

以上になりますかね。訂正するところは訂正してもらっていただき、次回の会に備えたいと思います。

何か、お気づきの点等がございましたら、どうぞその都度、市の方にでも結構ですので連絡いただきたいと思います。

みなさんの知恵をだしていただき、流山市のために、そして医療・地域再生に向けて被災者の方を極力少なくしていきたいと思っています。

これで、説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。